平成１９年度学内各センター等の自己評価に関するまとめ

平成２０年９月

評価センター

平成 19 年度学内各センター等の自己評価に関するまとめ

2008．9　高野　篤子

まえがき

平成 17 年 12 月に制定された「秋田大学内各組織における自己評価の指針」（平成 20 年 3 月一部改正）に基づき，学内の各センター等において平成 19 年度も自己評価・点検作業が行われた。それぞれで作成された平成 19 年度自己評価書の内容を昨年度と比較しながら，簡単にまとめた。今後の改善の参考にしていただけたら，幸いである。

１．自己評価実施

中期目標･中期計画および平成 19 年度計画に記載されている学内のセンター等の自己評価に関する項目を表 1-1 にまとめて示した。計画に従って，本報告書は，平成 19 年度末までに学内の各センター等が業務に関して自己評価書を作成し，評価センターに提出したものを，取りまとめたものである。

表 1-1　学内センター等に関する自己評価に関連する中期目標・中期計画・平成 19 年度計画

中期目標	Ⅴ　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 １　評価の充実に関する目標 ・自己点検・評価，外部評価及び認証評価機関による評価の結果を大学運営の改善に反映させるとともに，公表する。
中期計画	Ⅳ　自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置 １　評価の充実に関する目標を達成するための措置 〇評価結果を大学運営の改善に活用するための具体的方策 ・自己点検・評価，外部評価及び認証評価機関の評価結果を踏まえ活用するシステムを「企画会議」,「委員会」で構築する。
平成 19 年度計画	・「第三者評価機関及び外部評価の評価結果を踏まえ活用するマニュアル」に基づき，評価結果を活用した検討と改善を推進する。また，「秋田大学内各組織における自己評価指針」に基づき，大学内各組織において，継続的な改善を実施する。

本学内には，表 1-2 に示すように，平成 19 年度末時点で９センター，２機構，１ラボラトリ，１図書館がある。平成 19 年 11 月に地域共同研究センターと知的財産本部が統合され，産学連携推進機構となっている。さらに，平成 20 年２月には国際交流推進機構が発展的に改組し，国際交流センターとなっている。

14 におよぶセンター・機構等の自己評価書の作成は平成 18 年度に初めて整った。昨年度は，それぞれのセンターおよび機構等の目的・目標・実施体制・実績とも幅広く，かつ簡単には比較できないにもかかわらず，表 1-3 に示すような標準的な基準と指標により自己評価書を作成し，提出していただいたところが多かった。平成 19 年度も昨年度と同様に学内の 13 のセンター等で共通的な基準に基づき自己評価書を作成していただき，評価センターで収集した。そのため，平成 18 年度との比較が可能となっている。表 1-3 の各基準・番号について，組織とその活動に関す

る「水準評価」に対応するものとし，5 段階の評点を自己評価として評定して，自己評価を定量化している。

なお，自己評価書の内容は，基準に従い簡単なコメントをつけ，評価の特異性や現状を明確にしている。自己評価書の最後には，

①理念・目的・目標
②活動目標
③体制，組織など
④運営費の所要額の調査表
⑤その年度の達成度評価（自己評価）
⑥その他

などについて，明確にできる資料を添付することになっている。

表 1-2　学内各センター等名称および担当理事など　（秋田大学学則記載順）

番号	センター等名称	略称	担当者
1.	産学連携推進機構	CRC	理事（学術研究担当）
2.	総合情報処理センター	GIPC	
3.	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	VBL	
4.	バイオサイエンス教育・研究センター	BERC	
5.	放射性同位元素センター	RIC	
6.	環境安全センター	ERC	
7.	評価センター	評価	学長特別補佐（企画調整・評価担当）
8.	教育推進総合センター	教育	理事（教育担当）
9.	学生支援総合センター	学生	
10.	社会貢献推進機構	社会	理事（社会貢献・国際交流担当）
11.	国際交流センター	国際	
12.	附属図書館	図書館	附属図書館長
13.	保健管理センター	保健管理	保健管理センター所長

表 1-3　標準的な評価基準と指標

基準	番号	評価項目　注）
1．理念･目的	1-1	組織の使命または理念が定められているか
	1-2	組織の基本的，長期的方向性・方針である目的が定められているか
	1-3	組織の具体的かつ計測可能な水準の成果である目標が定められているか
	1-4	理念･目的・目標が構成員に周知されているか
2．組織･体制	2-1-1	目標を実現させるための具体的手段が講じられているか
	2-1-2	目標を実現させるための具体的実行の手順が講じられているか
	2-2-1	目標を実現させるための教員配置が適切か
	2-2-2	目標を実現させるための組織として事務職員の配置が適切か
3．施設･設備･予算	3-1	目標を実現するための施設は適切か
	3-2	目標を実現するための設備は適切か
	3-3	目標を実現するための財源・予算は適切か
4．活動･成果	4-1-1	目標の達成度を計るための基準が設けられているか

	4-1-2	目標達成度の基準をもとに的確な評価がなされているか
	4-2-1	目標達成に要した費用の成果に対する妥当性を判断する基準が設けられているか
	4-2-2	費用対効果の判断基準をもとに的確な評価がなされているか
5．評価･改善	5-1-1	目標に照らした活動が行われているかを継続的に点検する組織やシステムが存在するか
	5-1-2	目標に照らした活動が行われているかを点検する基準が設けられているか
	5-1-3	点検システムが効果的に機能しているか
	5-2-1	点検結果を踏まえ改善を行うための組織やシステムが存在するか
	5-2-2	改善のため組織が効果的に機能しているか

注）各基準評価項目について 5 段階評価を行う。（5 が最高の評価）

２．自己評価の全体まとめ

２－１．全体評価のまとめ

表 2-1 は，各センターから自己評価された各基準について，細目に関する評価値を平均して表にしたものである。平成 18 年度の基準取りまとめでは点数化をしないこととなっていた附属図書館と保健管理センターが平成 19 年度は加わっている。全体的な自己評価の平均値は昨年度と比べて 0.15 上昇し，特に「３．施設・設備・予算」，「４．活動・成果の基準」についての自己評価の平均がそれぞれ 0.27，0.36 も高まっている。

図 2-1 は，各評価基準の全センター等についての平均値を，レーダー図に示したものである。

表 2-1　各センター等の基準 1 から 5 に対する自己評価平均

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	
	CRC	GIPC	VBL	BERC	RIC	ERC	評価	教育	学生	社会	国際	図書館	保健管理	平均
１．理念･目的	4.5	5.0	4.8	5.0	5.0	5.0	5.0	4.3	4.8	4.5	4.5	5.0	5.0	4.79
２．組織･体制	4.3	5.0	4.3	5.0	4.5	4.0	5.0	4.0	4.3	3.8	3.8	4.5	4.3	4.35
３．施設･設備･予算	3.3	4.0	4.7	3.0	4.3	4.7	4.3	3.7	4.7	3.7	4.0	4.0	4.3	4.05
４．活動･成果	3.0	3.5	2.5	5.0	4.0	4.0	4.7	4.5	4.0	3.3	3.3	4.3	4.0	3.85
５．評価･改善	3.2	3.6	4.0	5.0	3.6	4.0	3.7	3.4	3.6	3.6	3.6	4.0	3.0	3.71
平　均	3.7	4.2	4.0	4.6	4.3	4.3	4.5	4.0	4.3	3.8	3.8	4.4	4.1	4.15

※各評価項目評点（1～5）の総数を評価項目数で除した平均値

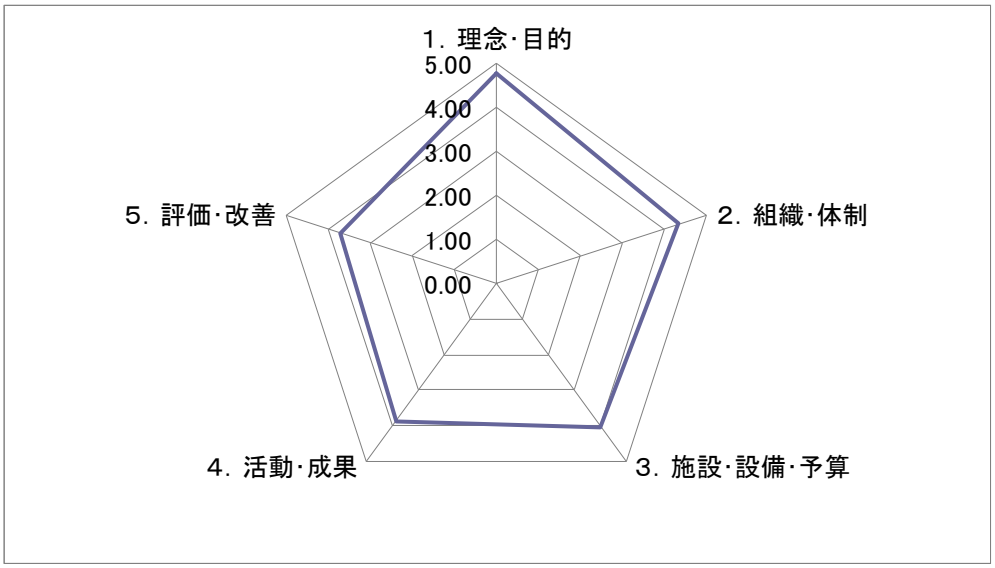

図 2-1　各センター等における基準評価の平均

図 2-2 は，各センター等ごとに全体の評価基準の自己評価平均を示している。BERC（バイオサイエンス教育・研究センター）が，昨年度と同じく最も高い自己評価をしている。昨年度と比較して，学生支援総合センターが自己評価における平均値の最も高い伸び（0.4 上昇）を示し，次いで国際交流センター（国際交流推進機構より改組）が 0.26 上昇，教育推進総合センターが 0.24 上昇している。

図 2-3 は，各センター等の比較をしたものである。図 2-4-1 から 2-4-12 は，それぞれのセンター内で，5 つの基準の平均的な評価がどのような配分になっているかを示している。

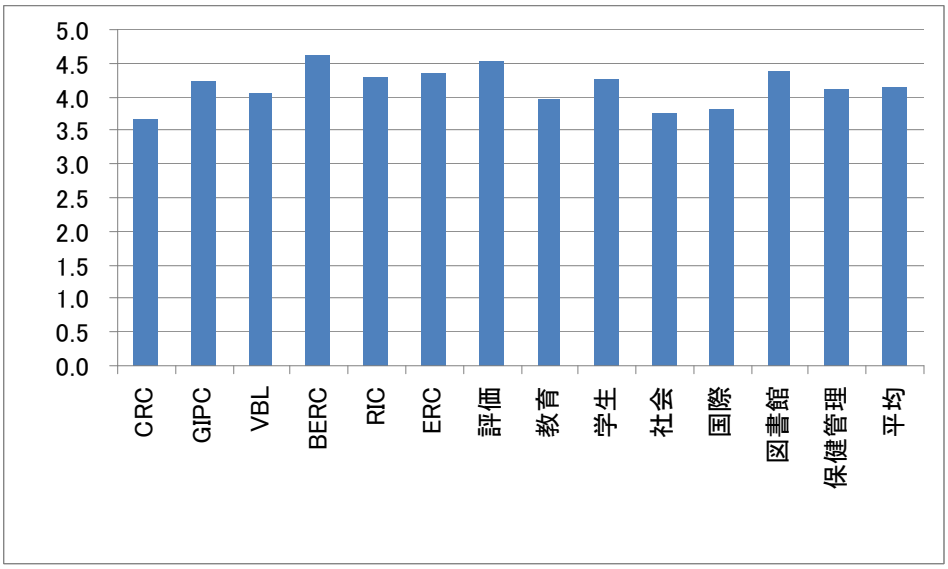

図 2-2　各センターの全基準自己評価の平均値

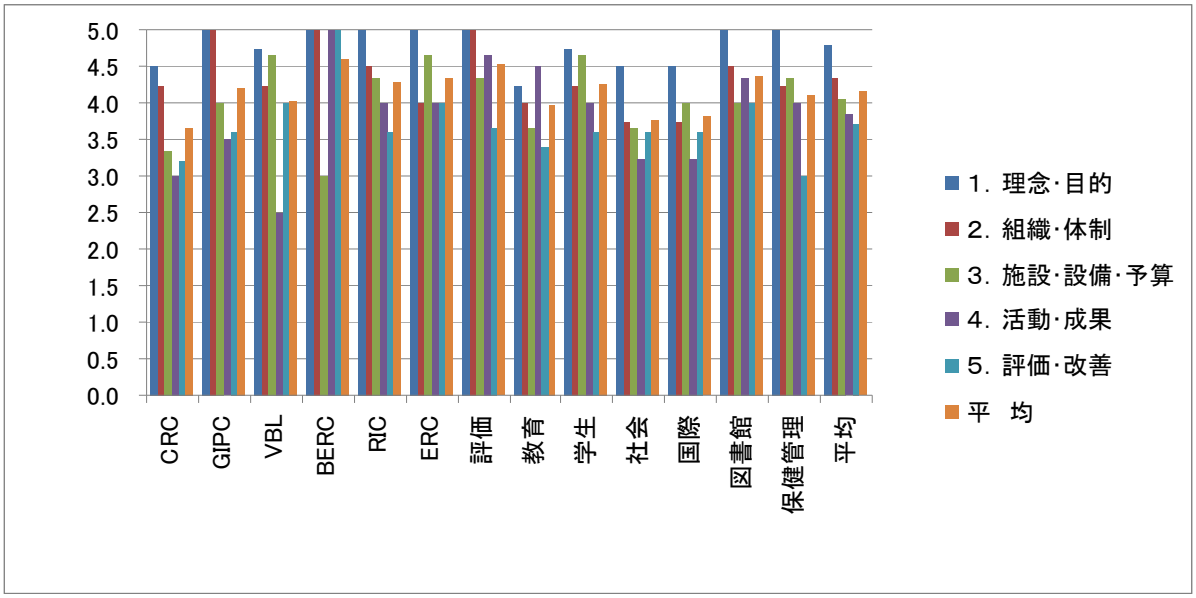

図 2-3　各センター等の各基準に対する平均

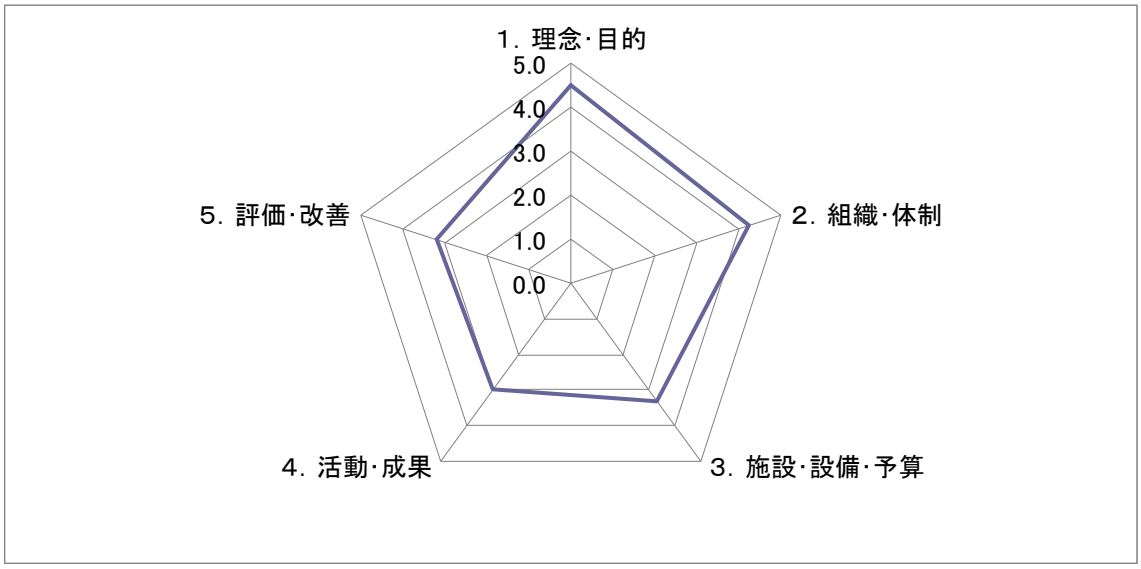

図 2-4-1　産学連携推進機構(CRC)の自己評価

産学連携推進機構(CRC)は平成 19 年 11 月に地域共同研究センターと知的財産本部が統合され，産学連携・共同研究部門と知的財産部門から成る。地域共同研究センターと知的財産本部の旧両組織の時と比較して「理念・目的」の自己評価が下がり，「活動・成果」に関して厳しく自己評価しているところに，今後の課題がうかがわれる。

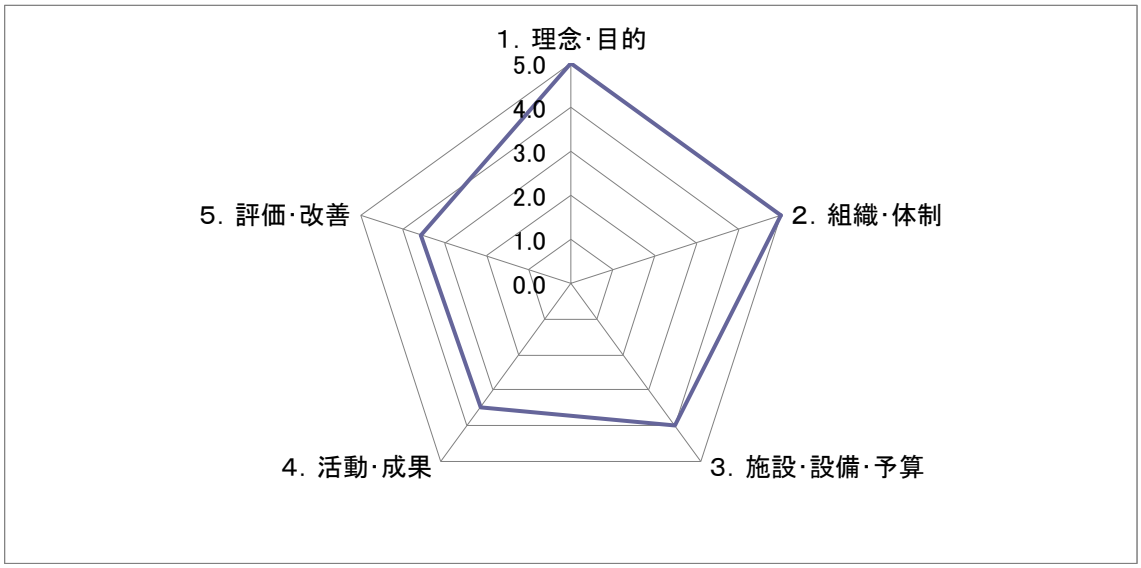

図 2-4-2　総合情報処理センター(GIPC)の自己評価

総合情報処理センター(GIPC)は，全体の自己評価平均値が平成 18 年度より 0.2 増加し，特に「施設・設備・予算」の自己評価が高まっている。

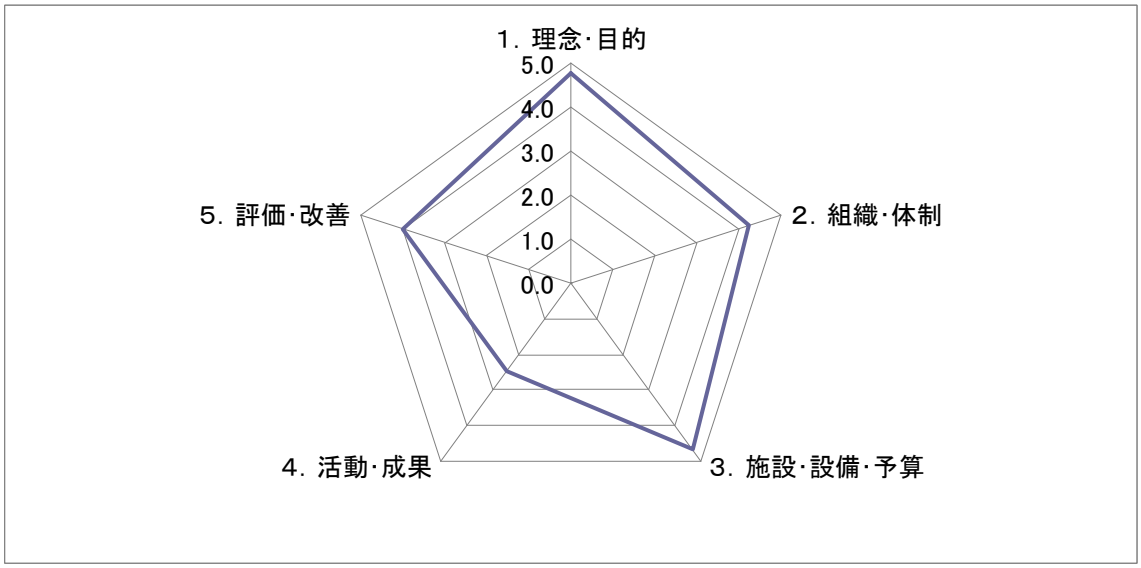

図 2-4-3　ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)の自己評価

ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)は，組織の特質や目的のためか，「活動・成果」に関する自己評価が昨年度と同様に各センター・機構等の中で最も低い。

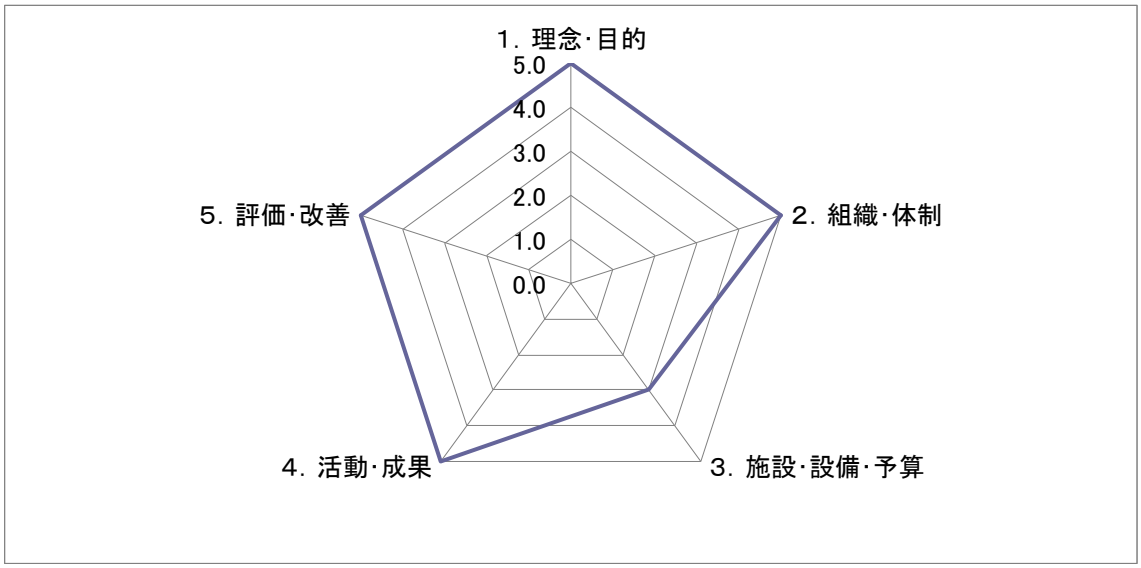

図 2-4-4　バイオサイエンス教育・研究センター(BERC)の自己評価

バイオサイエンス教育・研究センター(BERC)は，「施設・設備・予算」に関する自己評価が昨年度と同様に各センター・機構等の中で最も低い。

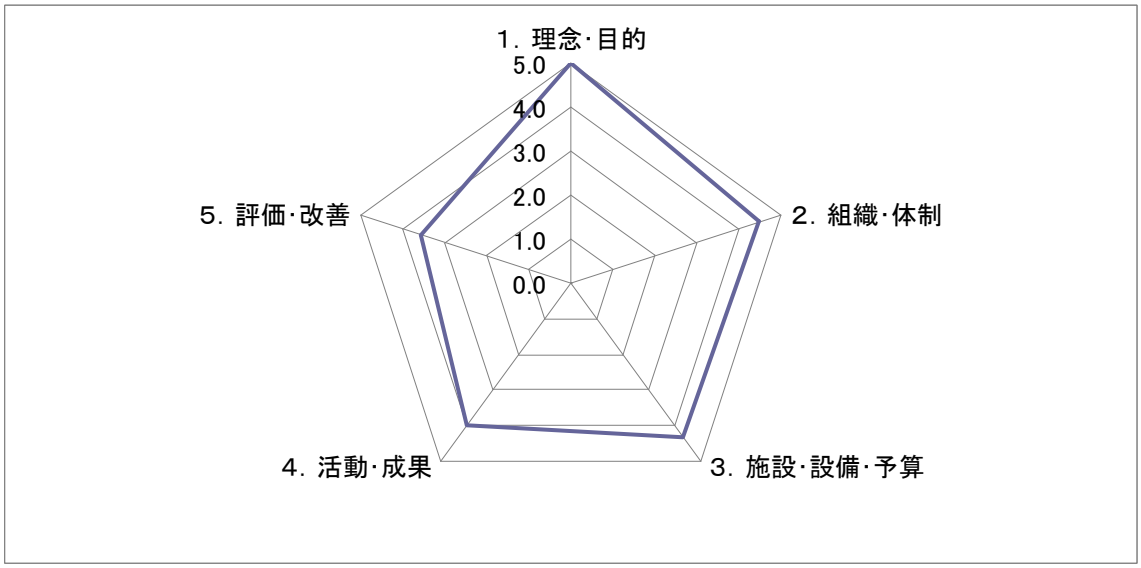

図 2-4-5　放射性同位元素センター(RIC)の自己評価

放射性同位元素センター(RIC)は，昨年度と全く同じ評価結果となっている。

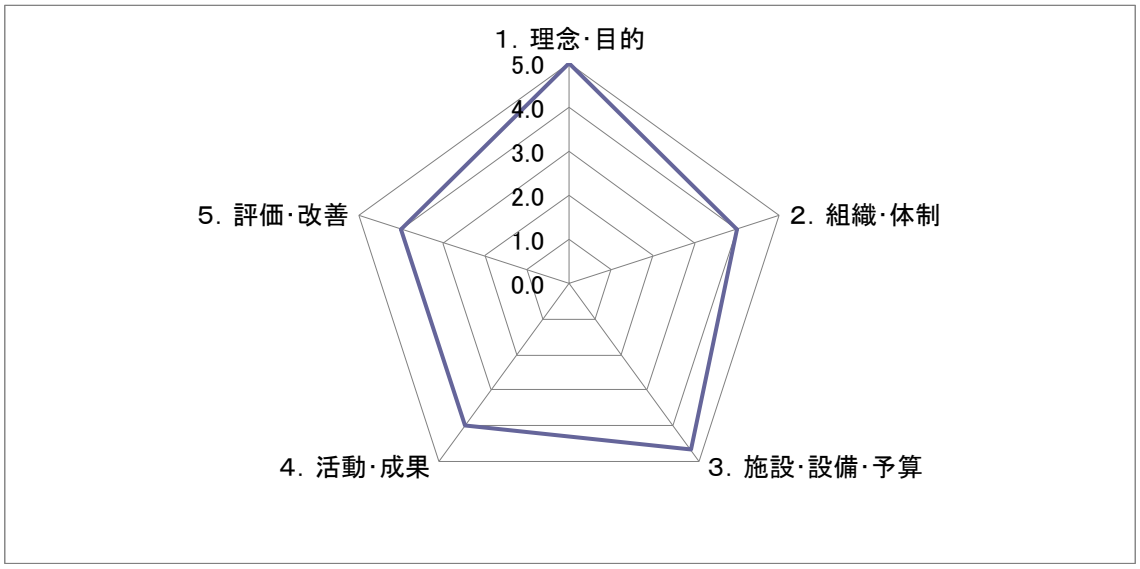

図 2-4-6　環境安全センター(ERC)の自己評価

環境安全センター(ERC)は，昨年度と全く同じ評価結果となっている。

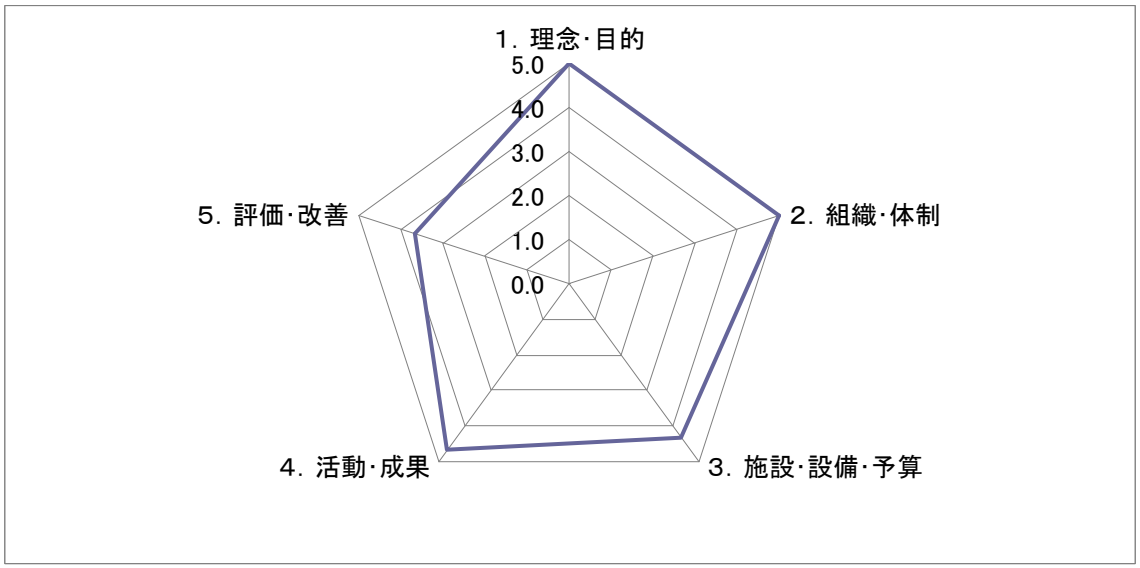

図 2-4-7　評価センターの自己評価

評価センターは，「活動・成果」の自己評価が昨年度より上がっている。

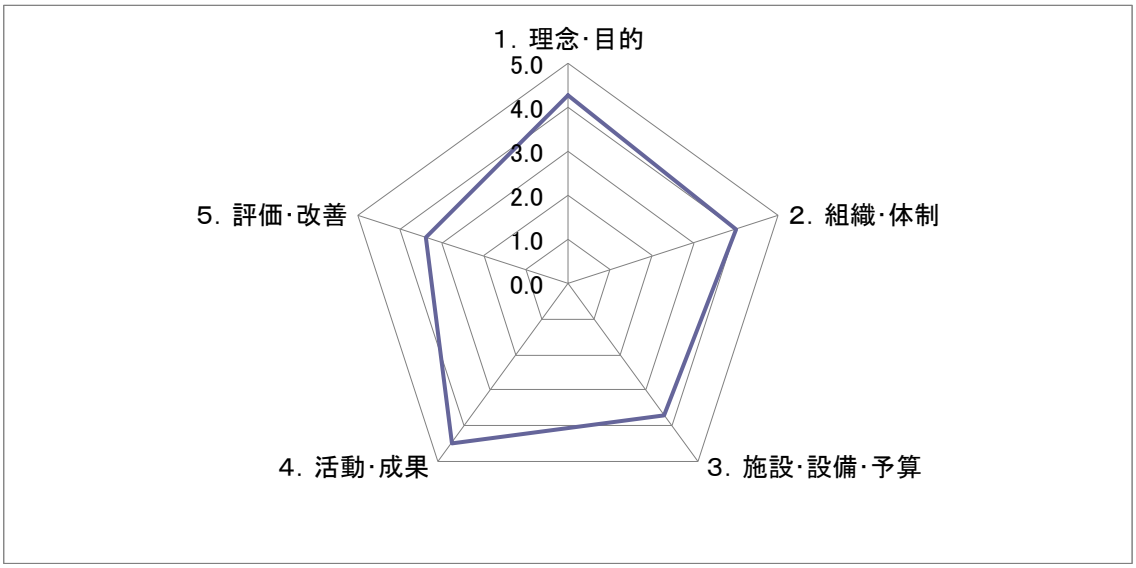

図 2-4-8　教育推進総合センターの自己評価

教育推進総合センターは，昨年度より「施設・設備・予算」の自己評価が低く（マイナス 0.6），「組織・体制」の自己評価は変わらぬまま，「活動・成果」（プラス 1.0）と「評価・改善」（プラス 0.4）に関する自己評価が高くなっており，改善への工夫・努力が顕著にうかがわれる。

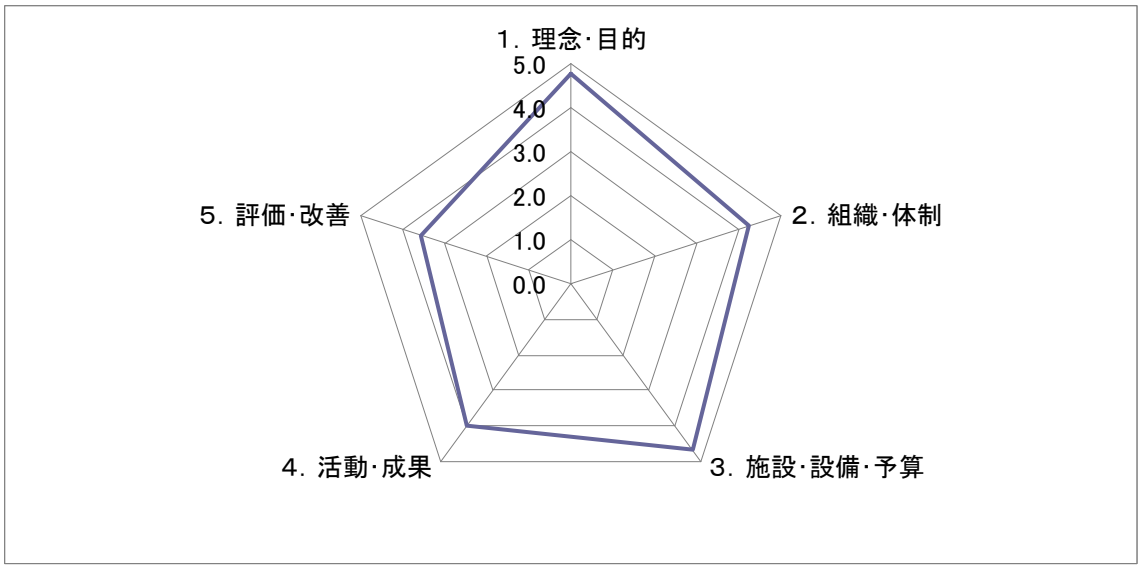

図 2-4-9　学生支援総合センターの自己評価

学生支援総合センターは，「施設・設備・予算」，「活動・成果」，「評価・改善」に関する自己評価が昨年度より高くなっている。特に，「活動・成果」が昨年度より 1.0 上昇している。

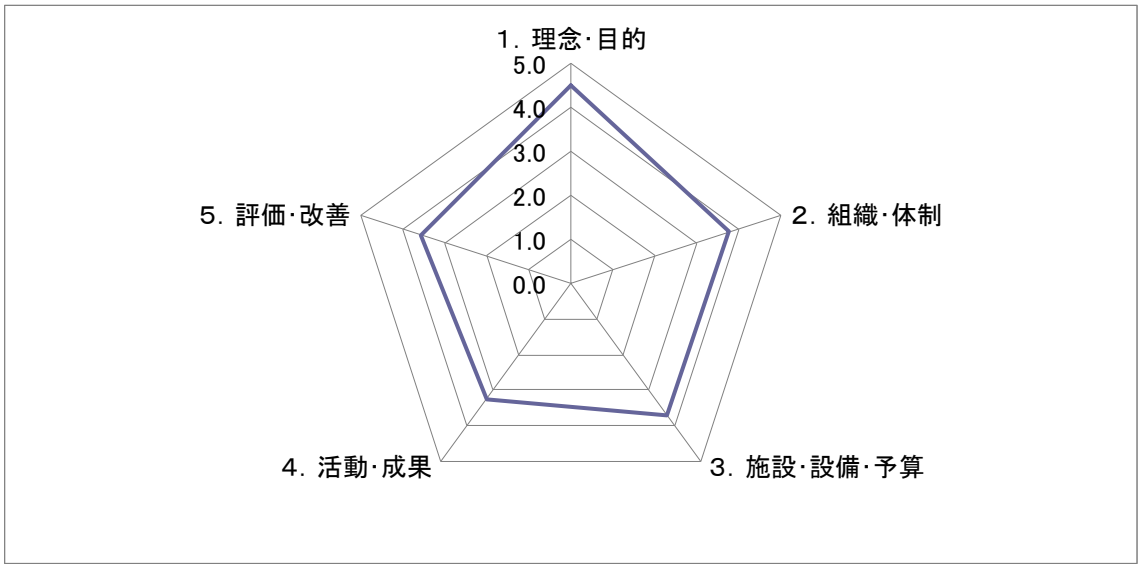

図 2-4-10　社会貢献推進機構の自己評価

社会貢献推進機構は，「理念・目的」と「施設・設備・予算」の２項目が昨年度と変わらず，他項目すべてで昨年度より自己を高く評価している。

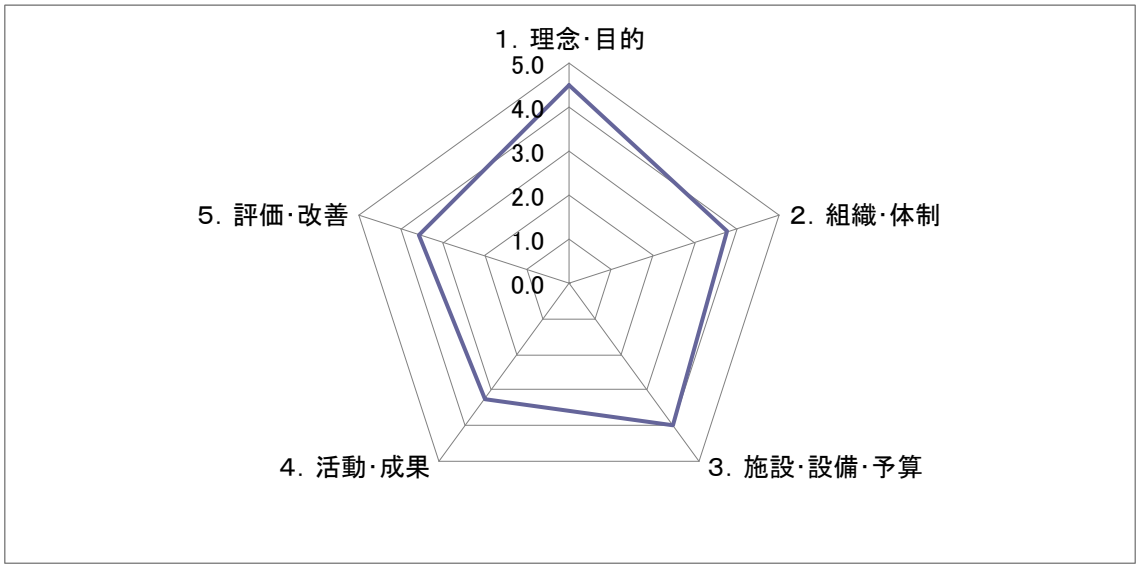

図 2-4-11　国際交流センターの自己評価

国際交流センターは平成 20 年２月に国際交流推進機構より改組されている。昨年度は各センター等の中で最も低い自己評価平均値であった。平成 19 年度における「理念・目的」,「評価・改善」は平成 18 年度と変わらず,「組織・体制」がプラス 0.5,「施設・設備・予算」がプラス 0.7,「活動・成果」がプラス 0.3 となっている。

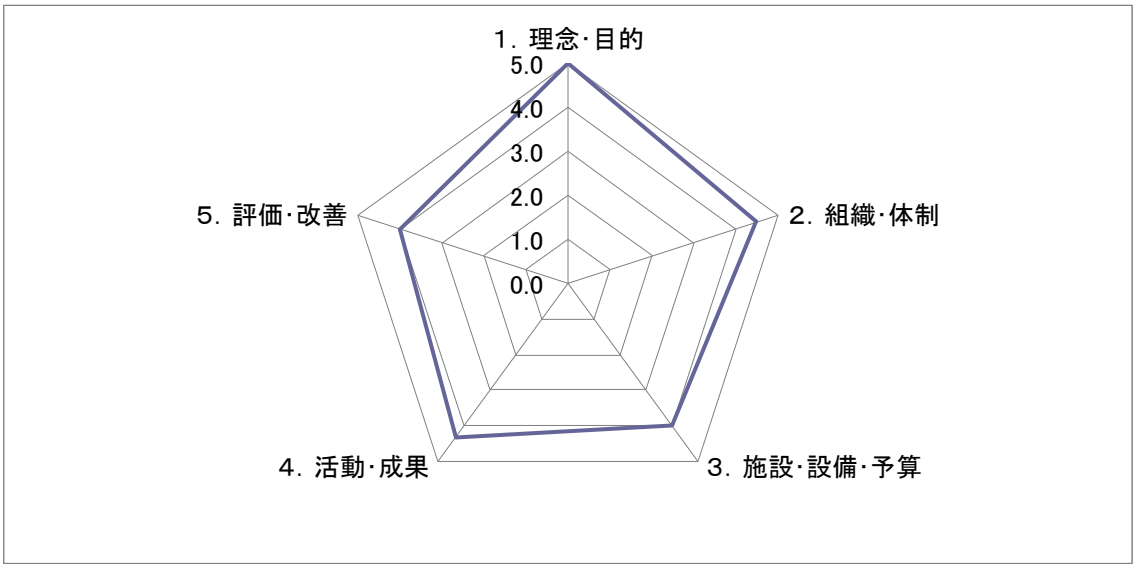

図 2-4-12　附属図書館の自己評価

平成 18 年度の基準取りまとめでは点数化を行っていない。

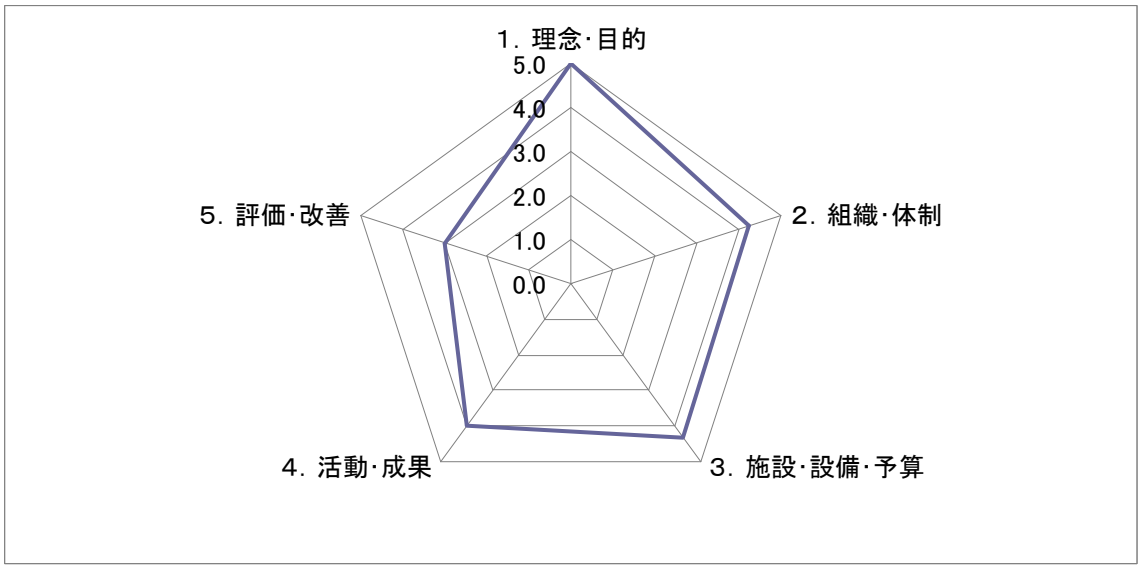

図 2-4-13　保健管理センターの自己評価

平成 18 年度の基準取りまとめでは点数化を行っていない。

２－２．基準毎の全体評価まとめ

基準１から５ごとの内容についての詳細をまとめたものが，図 2-5 から 2-9 である。附属図書館，保健管理センターは昨年度の基準取りまとめにおいて点数化していないため経年での比較を行わない。また，産学連携推進機構に関しても，昨年度中に地域共同研究センターと知的財産本部が統合されており，比較することは困難であり行わない。

1）基準１　理念・目的

基準１は，昨年度（4.77）と同様に基準１から５の中で最も全体の平均評価値が高く（4.79），各組織の使命・理念・目的が学内において明確化され，浸透してきていると思われる。ただし，「理念・目的・目標が構成員に周知されているか」という項目が弱いとするセンター等が５つあり，全学的な視点からも改善が望まれる。

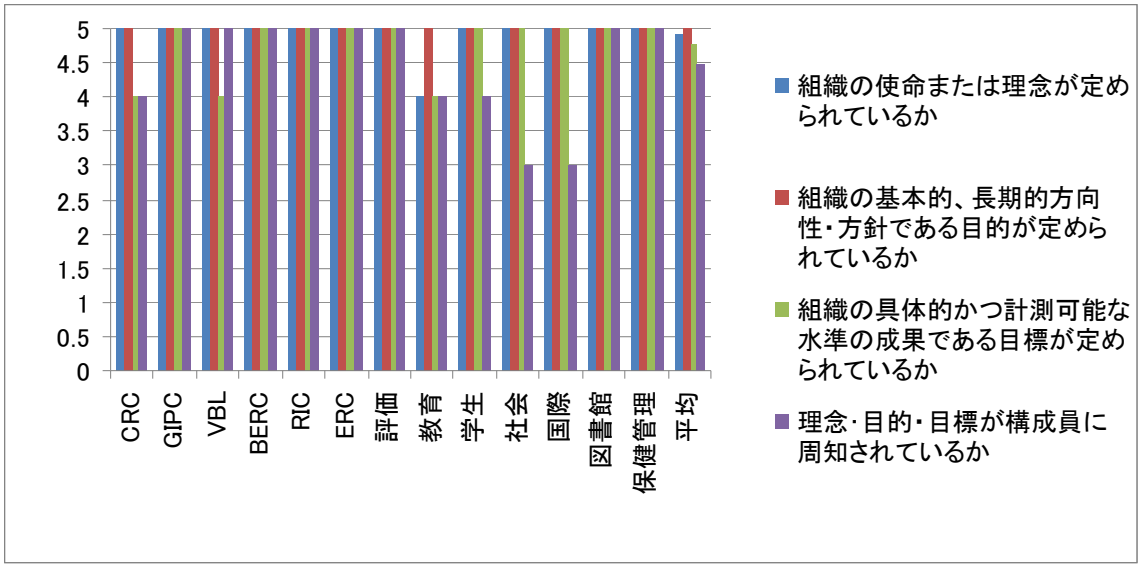

図 2-5　基準１の評価まとめ

2）基準２　組織・体制

基準２では，社会貢献推進機構と国際交流センターが昨年度より高く自己評価を行なっている。

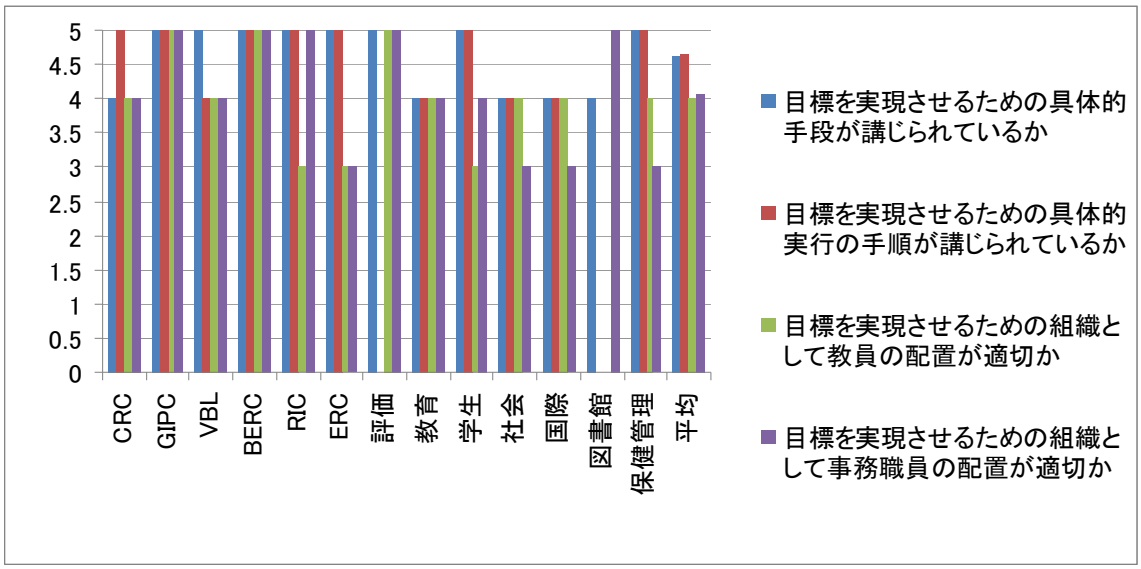

図 2-6　基準２の評価まとめ

３）基準３　施設・設備・予算

基準 3 では，昨年度より高く自己評価したのは総合情報処理センター（GIPC）（プラス 0.7），学生支援総合センター（プラス 0.7），国際交流センター（プラス 0.7）であり，低く自己評価したのはバイオサイエンス教育・研究センター（マイナス 0.3），教育推進総合センター（マイナス 0.6）であり，他は昨年度と同じであった。

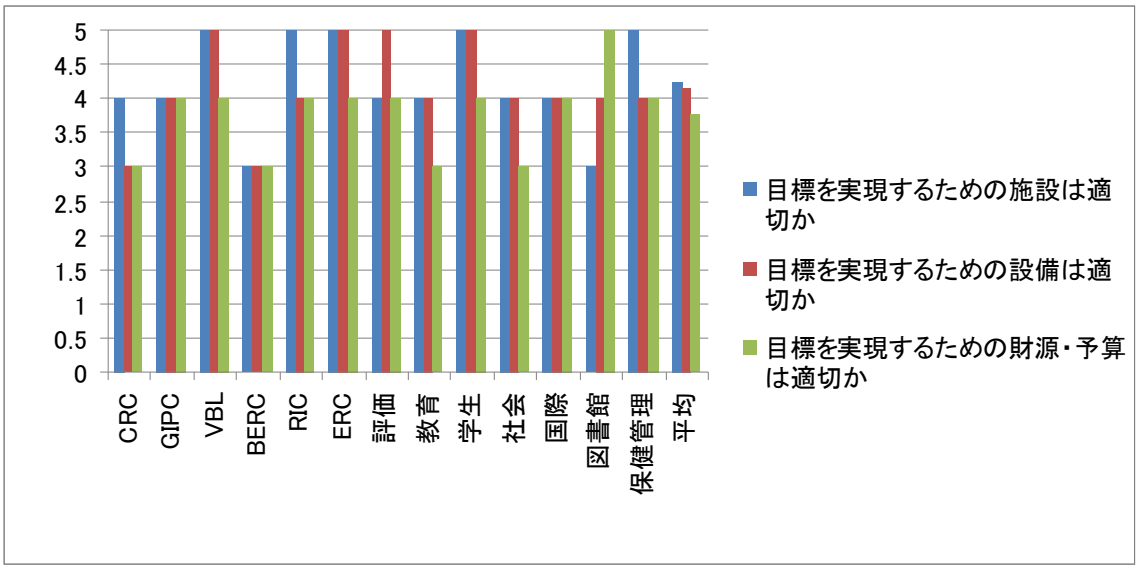

図 2-7　基準３の評価まとめ

４）基準４　活動・成果

基準 4 は，センター等によってばらつきのある自己評価になっているが，基準 1 から 5 の中で全体の平均自己評価値の上昇幅が 0.36 と最も大きかった。（昨年度 3.49 から 3.85 へ）

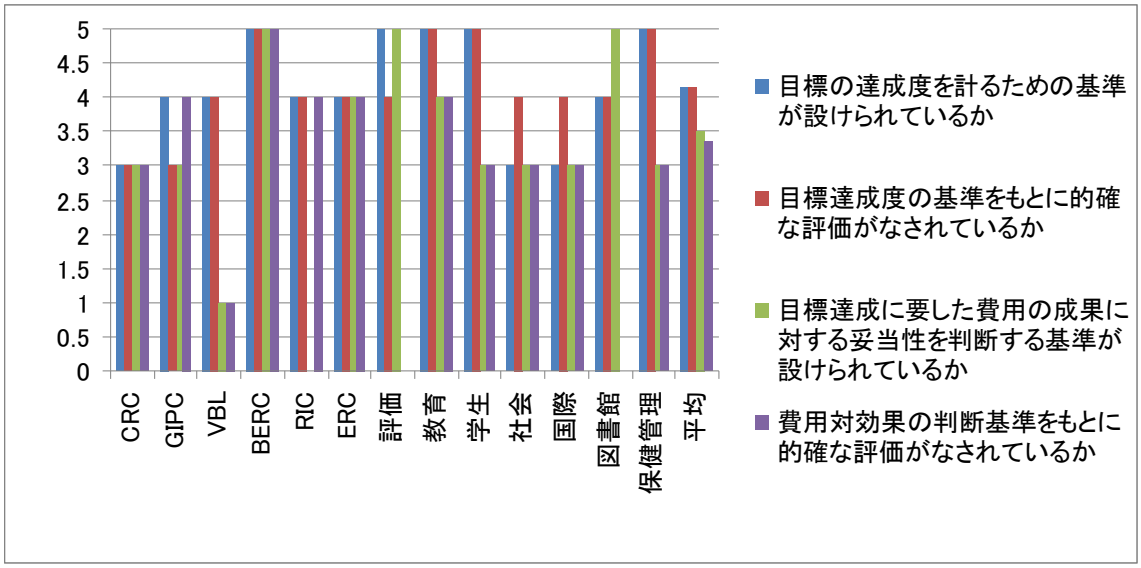

図 2-8　基準４の評価まとめ

5)基準５　評価・改善

基準 5 に関しては，各センター等全体の平均自己評価値は 3.71 と昨年度と同じである。

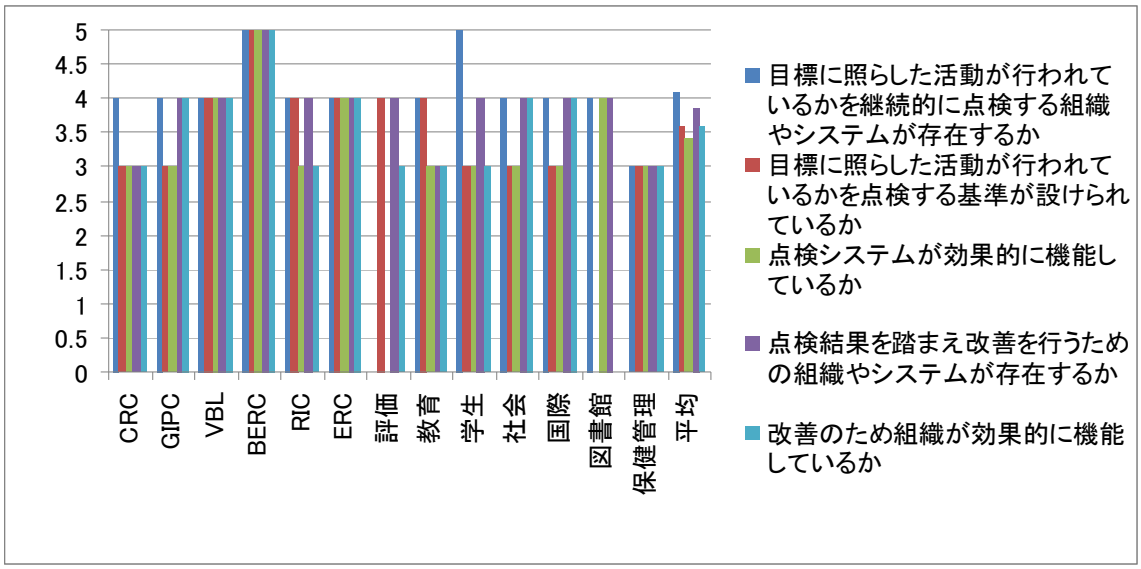

図 2-9　基準５の評価まとめ

２－３．各センター等の詳細な評価まとめ

２－３－１．詳細のまとめ

表 1-3 の標準的な評価基準と指標をもう一度振り返ってみる。図 2-10 は評価項目番号それぞれについて，全センター等の評価を平均したものを図化したものである。4-2 の費用対効果に対する自己評価が昨年度に引き続き低い傾向にある。

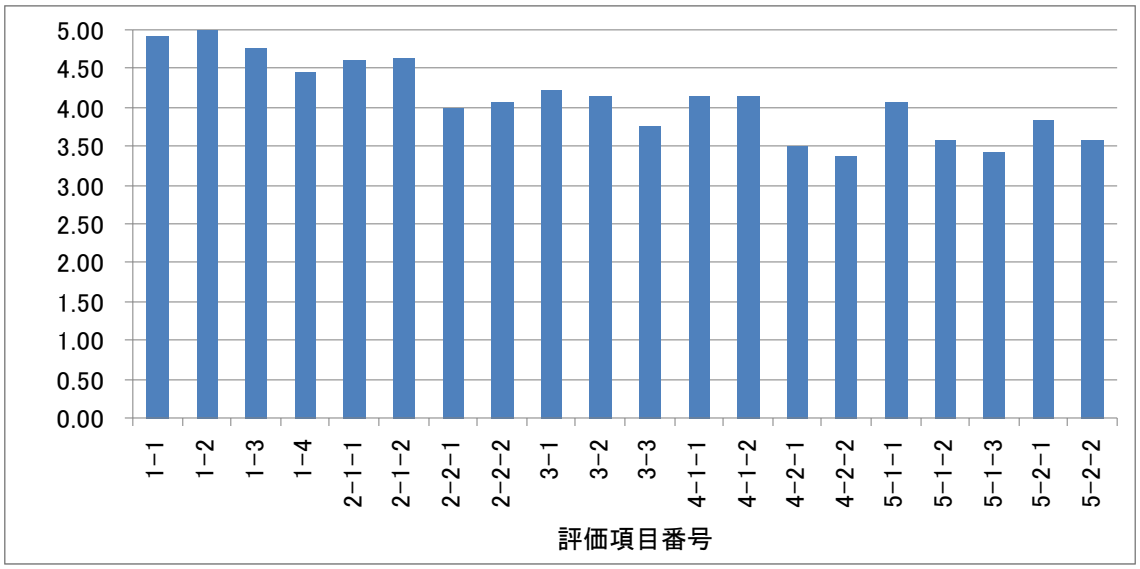

図 2-10　全体平均の詳細

２－３－２．各センター等の詳細のまとめ

１）産学連携推進機構（CRC）

平成 19 年 11 月に地域共同研究センターと知的財産本部が統合し，産学連携推進機構（CRC）となったことにより，新たな強みが今後生み出されることが期待される。

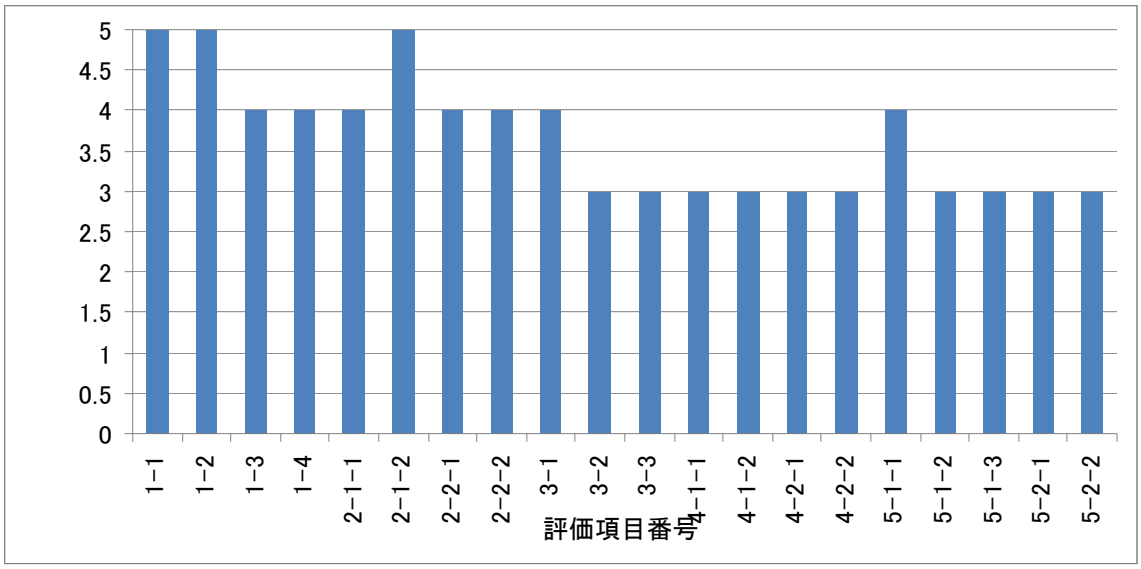

図 2-11　産学連携推進機構（CRC）の評価詳細

２）総合情報処理センター（GIPC）

総合情報処理センター（GIPC）では，その使命・目的に対する，費用対効果などの評価は難しいことは否めないが，改善の努力がみられる。

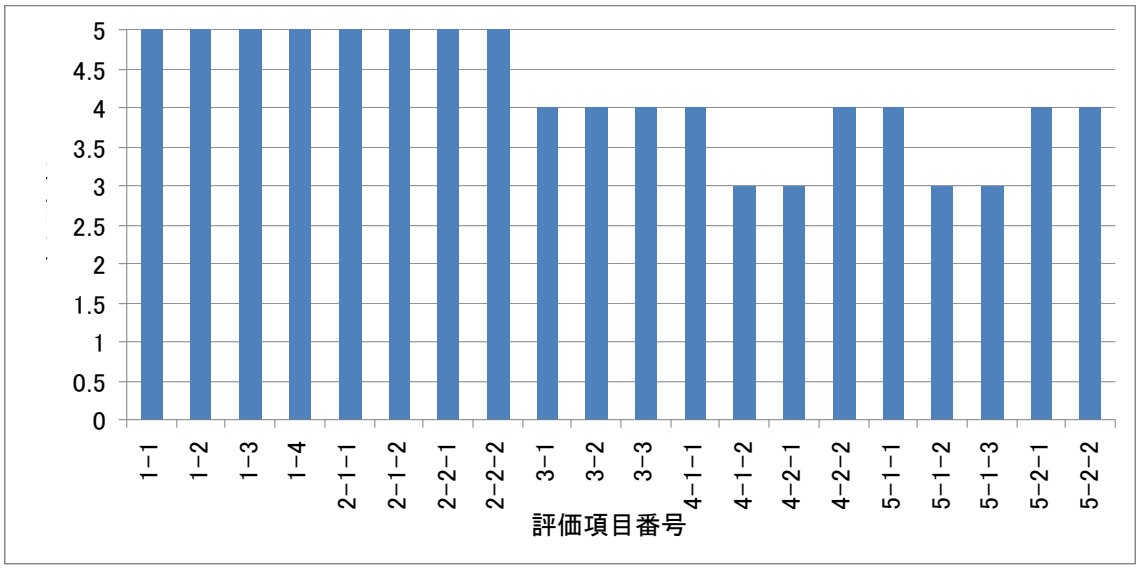

図 2-12　総合情報処理センター（GIPC）の評価詳細

3）ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）

「目標達成に要した費用の成果に対する妥当性を判断する基準」に関連する項目についての検討が必要である。

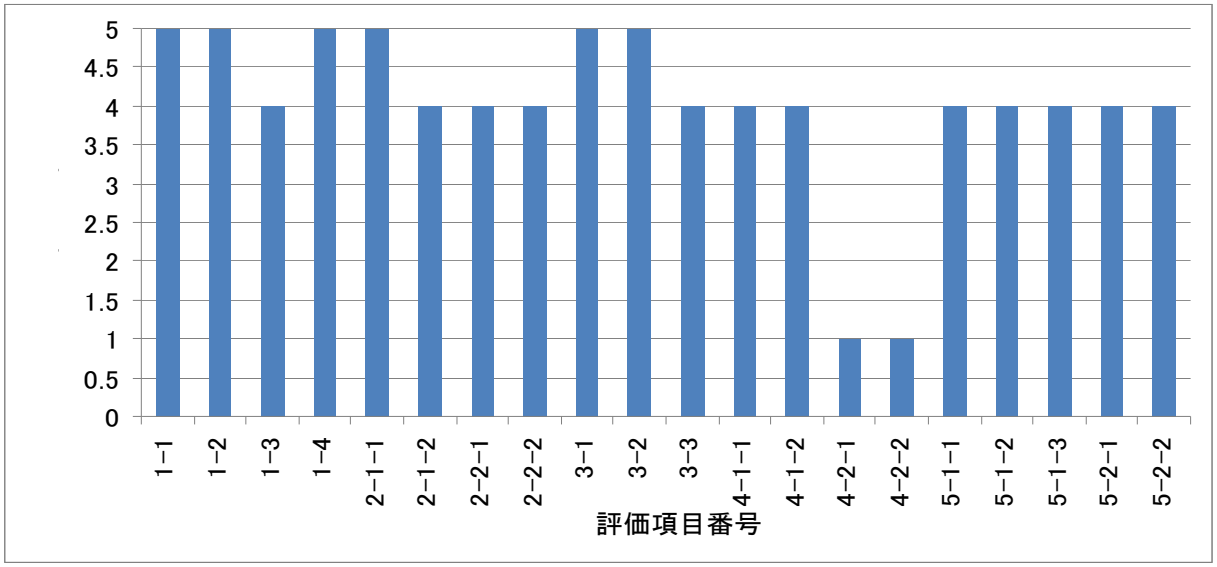

図 2-13　ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）の評価詳細

4）バイオサイエンス教育・研究センター（BERC）

バイオサイエンス教育・研究センター（BERC）では，高い自己評価を行っている。

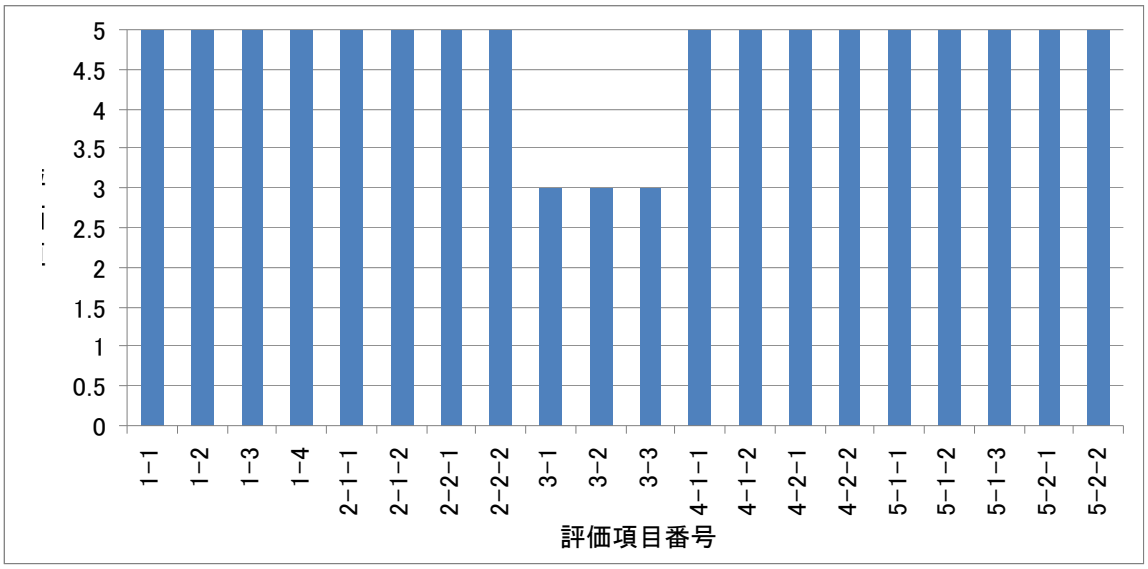

図 2-14　バイオサイエンス教育・研究センター（BERC）の評価詳細

５）放射性同位元素センター（RIC）

放射性同位元素センターでは，昨年度と同じように項目 4-2-1「目標達成に要した費用の成果に対する妥当性を判断する基準が設けられているか」に関する記載がなかった。しかし，各種法定上で必要なものであり，費用対効果の評価に対応しないことが示されている。目標の達成度の自己評価により，確認している。

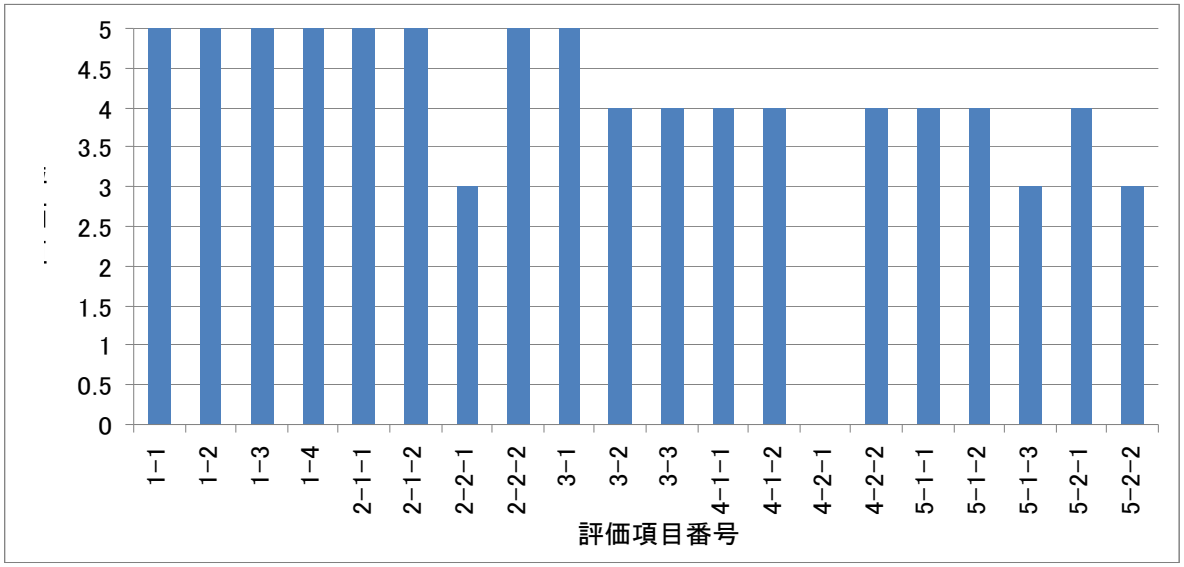

図 2-15　放射性同位元素センター（RIC ）の評価詳細

６）環境安全センター（ERC）

環境安全センターでは，昨年度と同様に，2-2-1 および 2-2-2 の項，すなわち教職員の配置に関する評価が比較的低いが，その他の項目については，比較的高い自己評価をしている。

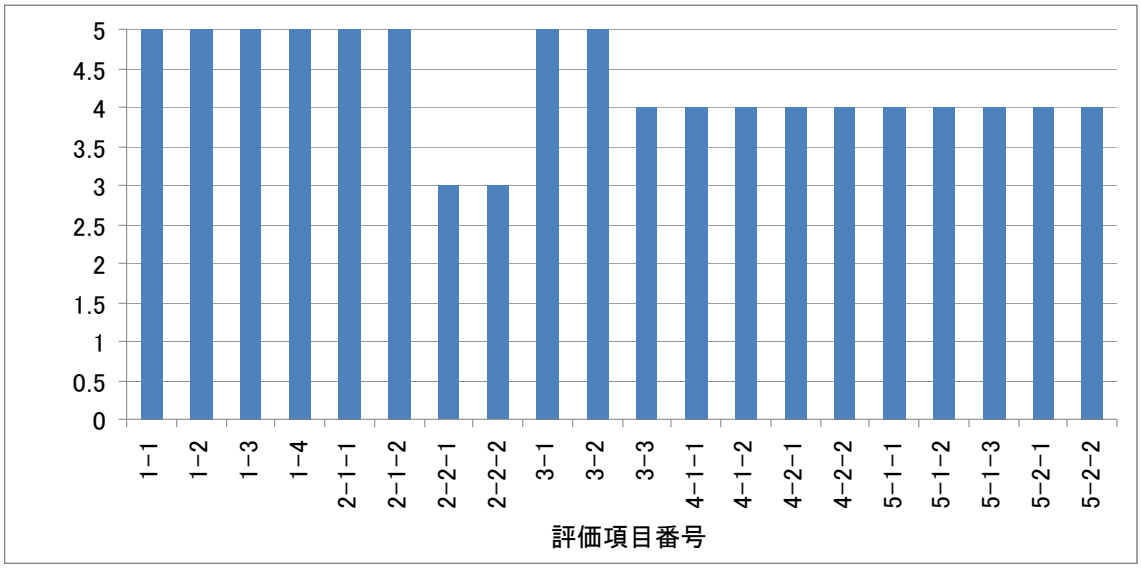

図 2-16　環境安全センター（ERC）の評価詳細

7）評価センター

評価センターでは，平成 18 年度の評価項目を若干変更して評価している。共通的評価項目を準用して示した。変更になっている自己評価項目を表 2-2 に示す。共通的な評価項目に記載が無いものがあるのは，このためである。

表 2-2　評価センターの評価項目

2．組織体制	2-1　目標を実現させるための組織体制が適切か 2-2　目標を実現するための教員配置が適切か 2-3　目的を実現するための事務職員配置が適切か
4．活動・成果	4-1　目標の達成度を計るための基準が設けられているか 4-2　目標に照らして活動成果が上がっているか，または進捗が確認できるか 4-3　目標の達成に向けて予算・財源が適切に使用されているか
5．評価，改善	5-1　目標に照らした活動が行われているかを点検する基準が設けられているか 5-2　目標の達成度や組織の活動状況に関する的確な評価がなされているか 5-3　点検結果を踏まえ改善を行うためのシステムが存在し，機能しているか

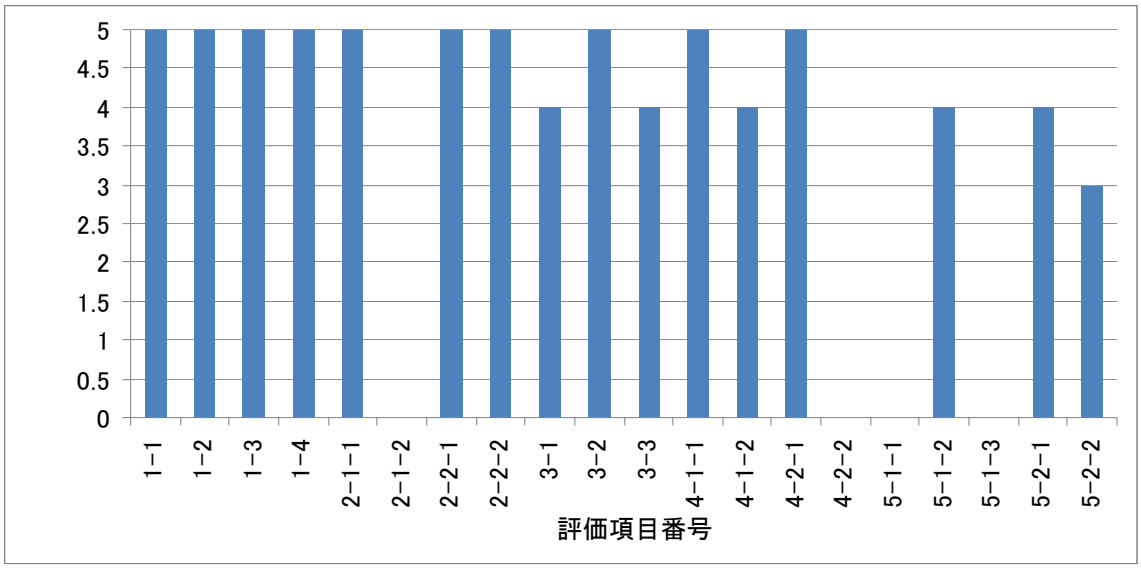

図 2-17　評価センターの評価詳細

８）教育推進総合センター

教育総合センターでは，昨年度より全体的に高い自己評価になっている。評価項目 3-3「目標を実現するための財源・予算」についての自己評価は低いが，活動・成果に対する評価が高くなっている。

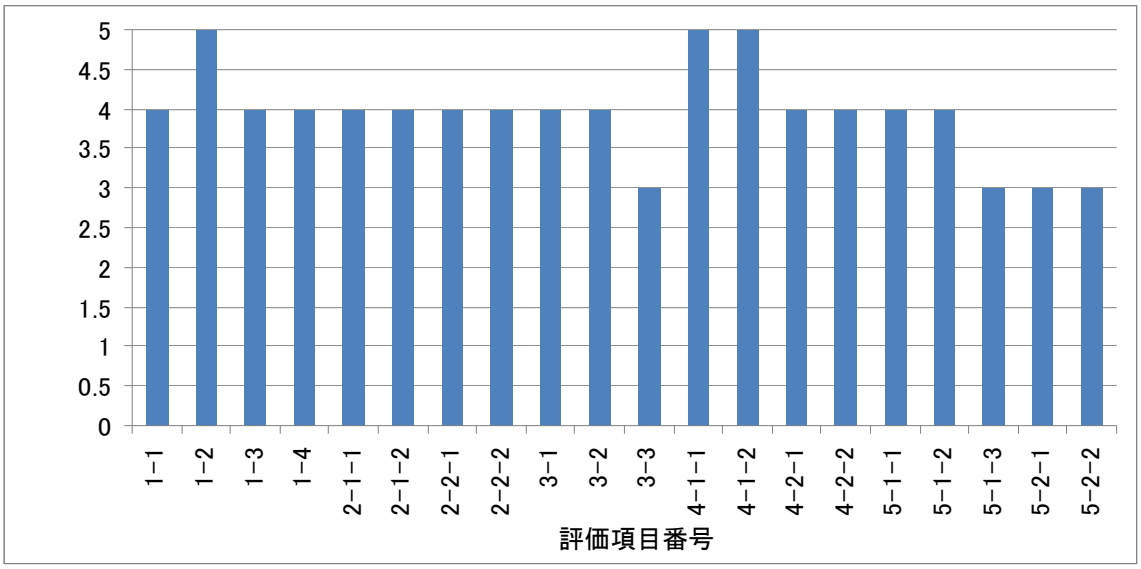

図 2-18　教育推進総合センターの評価詳細

９）学生支援総合センター

学生支援総合センターは，昨年度より自己評価平均が 0.4 も上がり，4.3 となっており，今後の進展を期待したい。

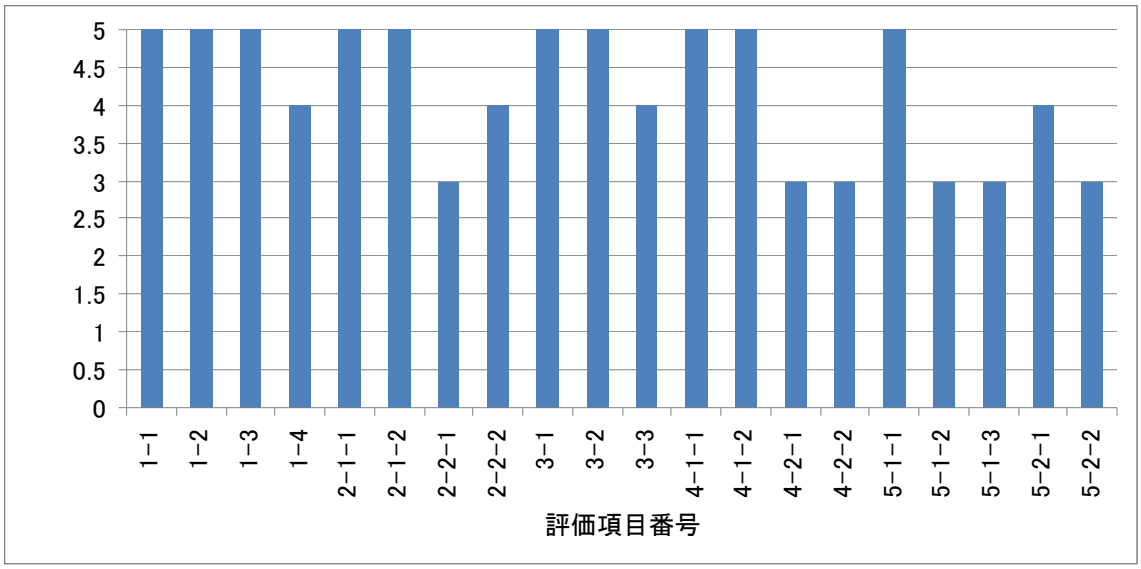

図 2-19　学生支援総合センターの評価詳細

１０）社会貢献推進機構

社会貢献推進機構は，国際交流センターと類似した自己評価傾向がある。

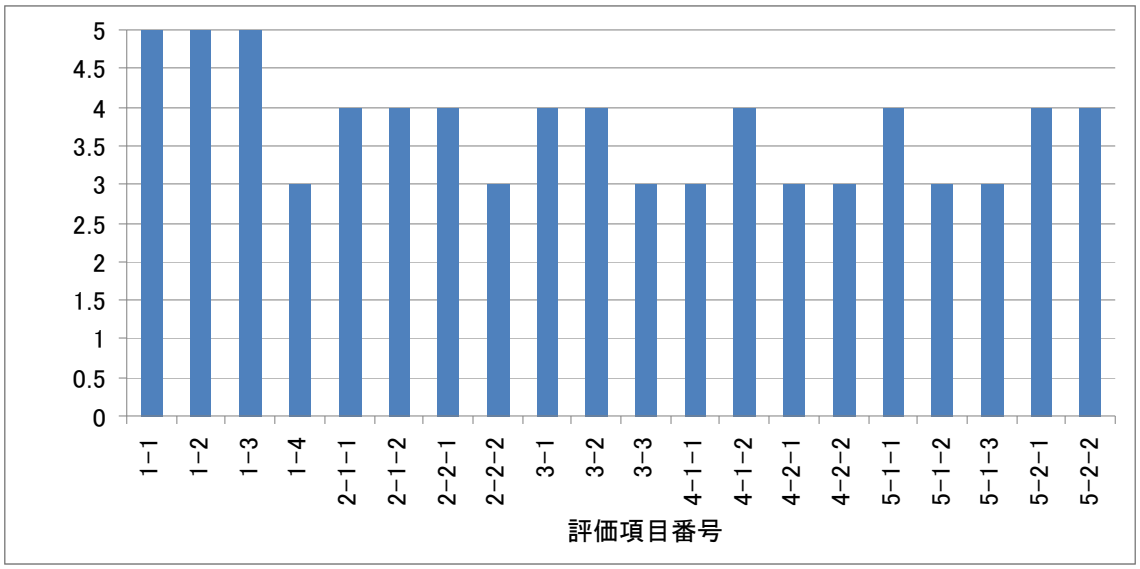

図 2-20　社会貢献推進機構の評価詳細

１１）国際交流センター

国際交流センターは，昨年度より全体的に高い自己評価になっている。

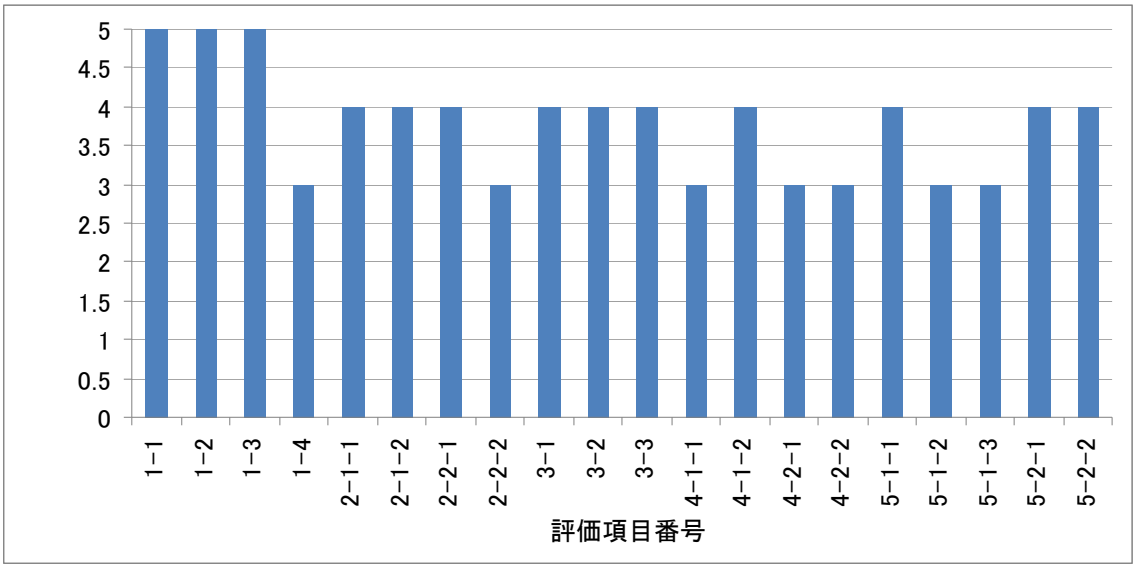

図 2-21　国際交流センターの評価詳細

１２）附属図書館

附属図書館では，基準の５項目に対応し平成 18 年度自己評価書を作成しているが，評価項目に対して 5 段階評価を行っていなかった。平成 19 年度は「表 1－3　標準的な評価基準と指標」をベースにして，独自の項目により５段階評価を行なっている。評価項目に記載が無いものがあるのは，このためである。

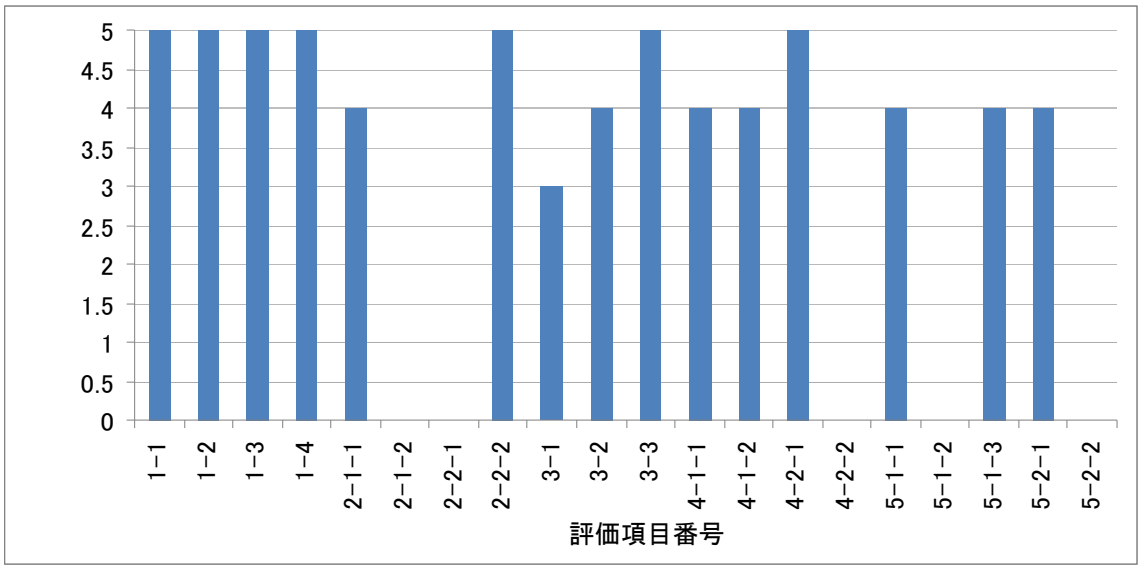

図 2-22　附属図書館の評価詳細

１３）保健管理センター

保健管理センターは，平成 18 年度に自己評価書を作成して，提出しているが，基準取りまとめにおいて点数化を行っていない。平成 19 年度においては「表 1－3　標準的な評価基準と指標」による 5 段階評価を行なっている。

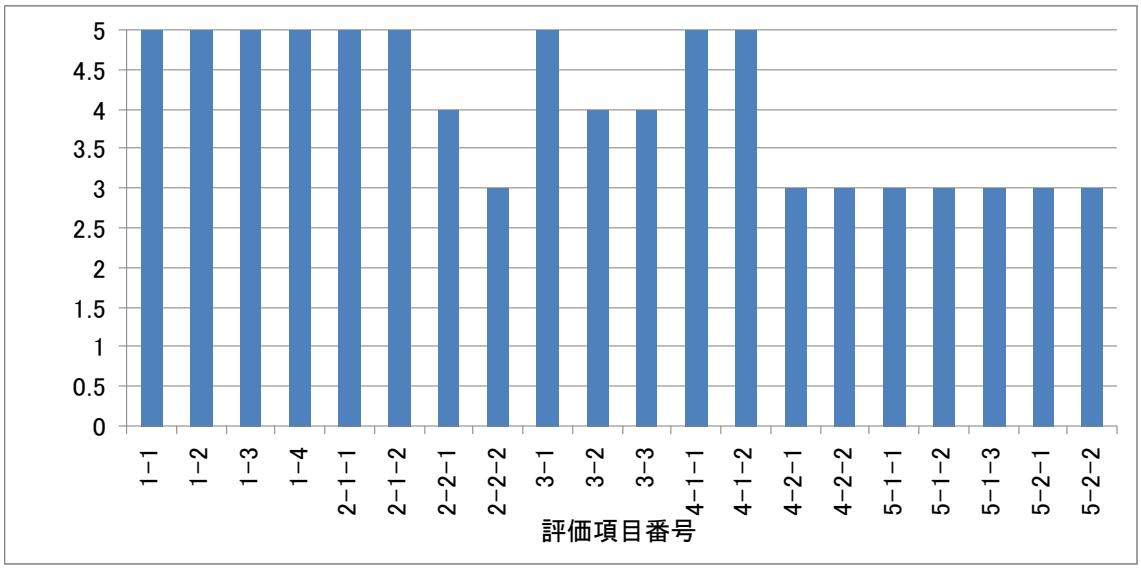

図 2-23　保健管理センターの評価詳細

あとがき

14 におよぶ学内のすべてのセンター等の自己評価書を取りまとめたのは，平成 18 年度が初めてである。平成 19 年度は，「平成 18 年度学内各センター等の自己評価に関するまとめ」と比較をしながら，９センター，２機構，１ラボラトリ，１図書館について簡単にまとめてみた。13 のいずれの学内センター等においても，改善に取り組む姿勢および努力がうかがわれる。ＰＤＣＡサイクルの定着そして発展が期待される。